

初対面のため、どの会場でも皆さんは緊張と不安でいっぱいです。対話は、参加者が思っていることを何でも気軽に話せる雰囲気にするのが最も大切であるため、たっぷり時間をとってまずはあいさつから始めます。対話の場づくりは、この分野で多く経験を積む大学の先生に進行していただきました。

あいさつのやり方はとても簡単。真っ白な用紙に「名前」「地域の魅力」「一番忙しくしていること」「今の気持ち」などを書き、グループ内で発表し合うことで、どのような方が参加されているかを知ります。肩書きに関係なく参加された方は性別や世代、職業もさまざま。あるグループには移住されてきた方の姿も。自己紹介を

あいさつから始める
はじめまして、みなさん

お名前	たにくち	一番忙しくしていること	授業の準備と 与謝野町の準備
ご所属	福知山公立大学	今の気持ち・気分	ドキドキもんです
お住まい	長町	この場への期待	新たな出会い
岩滝の魅力・お宝	ご近所さん (福知山の魅力・お宝)		

岩滝地域のファシリテーターを務めた谷口先生が紹介すると・・・



することで徐々に緊張がほぐれ会話や笑い声が多くなってきました。このように場が温まることで、自分が思っていることや考えていることを発言しても安心な場所であることを感じていただくことができました。



加悦地域の会議の一コマ。各グループで、自身が普段利用する公共施設を整理している様子。



各会場での自己紹介の様子（写真左から野田川会場、岩滝会場、加悦会場）。岩滝会場では手話通訳者が来られています。

よさの地域デザイン会議

地域別会議、始まる。

～ 第1回のテーマは「利用圏域」～

8月22日にオンラインで開催したキックオフミーティングに続いて、よさの地域デザイン会議の「地域別会議」がいよいよスタート。地域別会議は、加悦・岩滝・野田川地域から無作為で選ばれた住民の皆さんと町職員が参加。今月号では、10月8日から12日に加悦地域（住民18人、職員6人）、岩滝地域（住民18人、職員5人）、野田川地域（住民20人、職員5人）のそれぞれの地域で開催した第1回地域別会議の内容を紹介します。

よさの地域デザイン会議

年齢、性別、居住地区、肩書などが異なる多様な住民に参加いただき、持続可能なまちづくりにおける公共サービスのあり方、それに必要な公共施設のあり方について、対話により多彩なアイデアや提案を収集し、「公共施設等総合管理計画」の見直しへつなげることを主な目的としたものです。

学ぼう
公共施設の現状と
公共サービス

あいさつの後は、企画財政課から改めて本会議の趣旨、社会の変化と公共施設の現状について説明。与謝野町では人口減少・少子高齢化が進み、2045年には人口が現在の約半分、65歳以上の高齢化率が約50%と予測されています。また、1970年から1980年代に建設した多くの公共施設の改修や建て替えの時期が、一気に到来してきています。このような社会の変化、そして今後のまちの財政状況を考えると、すべての公共施設をそのまま維持・更新することは難しく、公共施設の総数を減らしながら公共サービスの質を維持することが求められています。

本会議は、「公共施設は公共サービスを提供するための一つの方

与謝野町行財政経営
マネジメントアドバイザー

すぎおか ひでのり
杉岡 秀紀 氏

(福知山公立大学地域経営学部 准教授)

公共施設のあり方はものすごく難しい問題で往々にして総論賛成・各論反対になります。公共施設は誰のため、何のためにあるのでしょうか。公共施設は役場のものではなく、住民のもので。そして住民の幸せのためにあるわけです。ですから、公共施設の問題を役場や議会任せにせず、自分たちで考えていくことが大事です。まさに住民が主役になるべきです。皆さんには、この問題を「自分ごと化・我がこと化」として考えていただければと思います。

役場がたたき台を作って住民にお墨付きをもらう進め方ではなく、住民がたたき台を作ってさらに住民の知恵を乗せる。正解や間違いはありません。ただし、今だけ良ければいいのではなく、子どもたちの未来にとっても良い施設にならなければなりません。

今回の会議には決まったルールやたたき台はありません。住民の中にどのような考え方があるのかを見える化することがとても大事だと思っており、話し合いそのものが目的であり手段でもあります。ぜひ、皆さんの意見やアイデアをどんどん出していただきたいと思います。

ご意見・ご感想・ご提案は常に受け付けています！

よさの地域デザイン会議委員でなくても、本件についてご意見等を受け付けています。いただいたご意見等は、よさの地域デザイン会議で共有します。

【受付方法】

住所・氏名・年齢・性別をご記入いただき以下のいずれかの方法で、企画財政課までお届けください。

- メール kikakuzaisei@town.yosano.lg.jp
- F A X 46-2851
- 郵 送 〒629-2292 与謝野町字岩滝 1798-1

よさの地域デザイン会議の情報は、町公式ホームページで随時更新中！



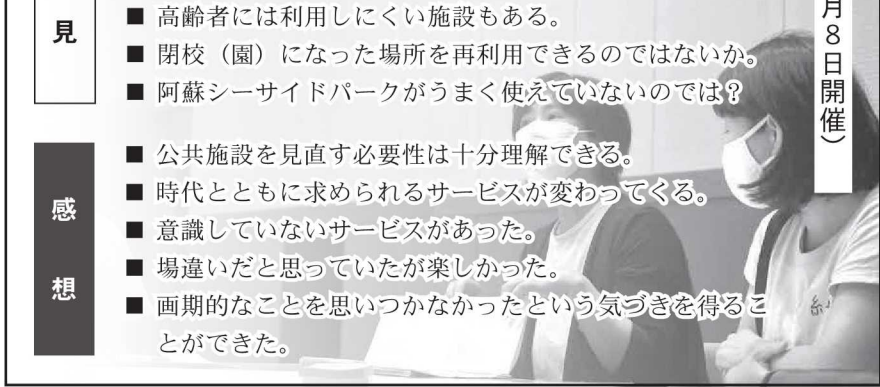
岩滝地域 (10月8日開催)

意
見

- 施設を減らすことによる移手段に不安がある。
- 免許返納すると小学校区で施設がないと困る。
- 全ての施設が近くにある必要はない。
- 図書館は町域でよい。
- 民間へシフトさせる。
- 公共施設の数に対して利用者が少ないのでは。
- 高齢者には利用しにくい施設もある。
- 閉校(園)になった場所を再利用できるのではないか。
- 阿蘇シーサイドパークがうまく使えていないのでは？

感
想

- 公共施設を見直す必要性は十分理解できる。
- 時代とともに求められるサービスが変わってくる。
- 意識していないサービスがあった。
- 場違いだと思っていたが楽しかった。
- 画期的なことを思いつけなかったという気づきを得ることができた。



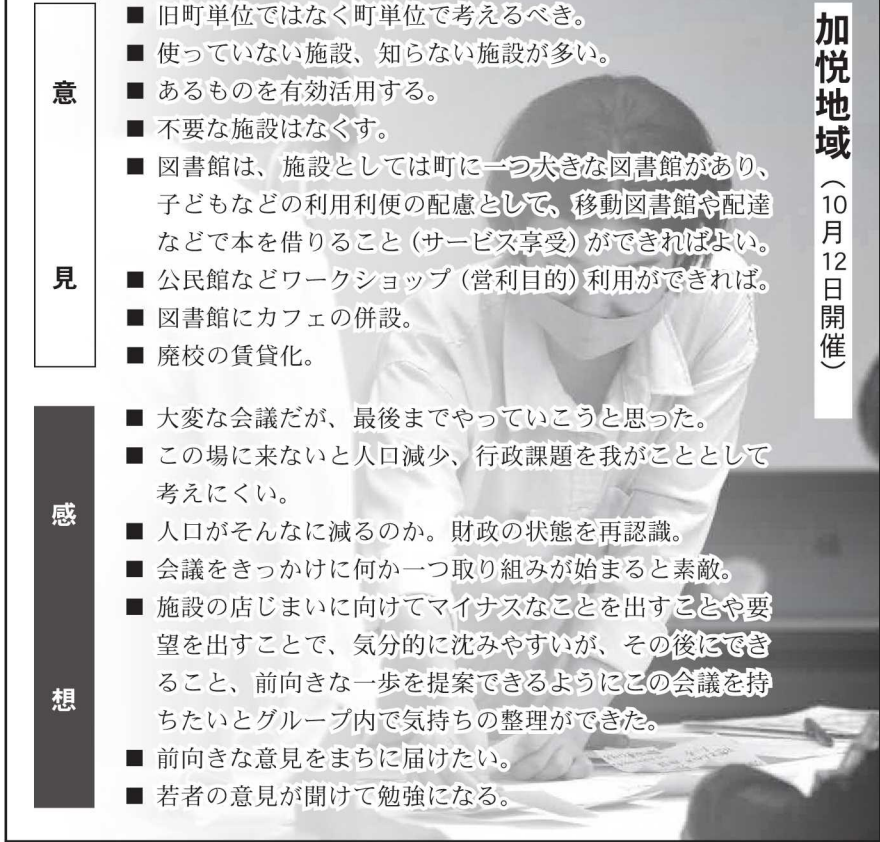
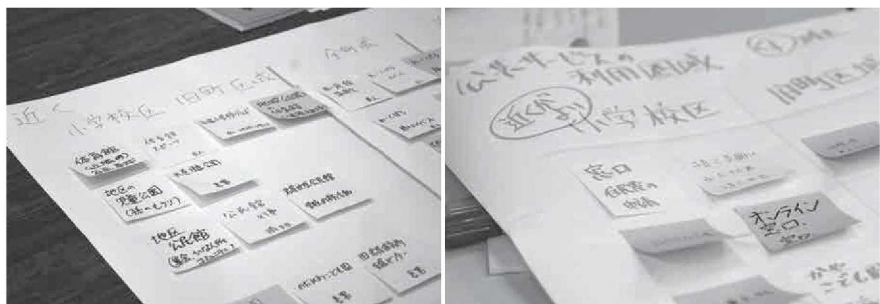
加悦地域 (10月12日開催)

意
見

- 旧町単位ではなく町単位で考えるべき。
- 使っていない施設、知らない施設が多い。
- あるものを有効活用する。
- 不要な施設はなくす。
- 図書館は、施設としては町に一つ大きな図書館があり、子どもなどの利用の配慮として、移動図書館や配達などで本を借りること(サービス享受)ができればよい。
- 公民館などワークショップ(営利目的)利用ができれば。
- 図書館にカフェの併設。
- 廃校の賃貸化。

感
想

- 大変な会議だが、最後までやっていこうと思った。
- この場に来ないと人口減少、行政課題を我がこととして考えにくい。
- 人口がそんなに減るのか。財政の状態を再認識。
- 会議をきっかけに何か一つ取り組みが始まると素敵。
- 施設の店じまいに向けてマイナスなことを出すことや要望を出すことで、気分的に沈みやすいが、その後に行えること、前向きな一歩を提案できるようにこの会議を持ちたいとグループ内で気持ちの整理ができた。
- 前向きな意見をまちに届けたい。
- 若者の意見が聞けて勉強になる。

話し合おう

公共サービスの
「利用圏域」を考えよう

法」ととらえ、公共サービスのあり方に視点を置きながら与謝野町が目指すべきまちの姿について意見を出し合う場です。参加者は、配布された公共施設の位置図と一覧表を見ながら、現状を確認し、お互いに気付いたことを出し合いました。

第1回のテーマは「利用圏域」です。それぞれのグループでは、参加者それぞれが関心を持っている公共サービスを複数書き出し、そのサービスが近くにあった方がよいもの、逆に近くなってもよいものを「小学校区域」「旧町区域」「全町域」「近隣市町」「遠隔」に分けて模造紙に整理。整理する際は、なぜそのように思ったのか話し合



いながら進めました。グループによってさまざまな公共サービスが出され、整理された内容もそれぞれ違います。途中、他のグループがどのように整理されているかをのぞきに行き、新たな気づきからさらに話し合いが進められ、時間が足りないほどの盛り上がりとなりました。各地域での意見や感想は以下のとおりです。(抜粋)

野田川地域 (10月9日開催)

意
見

- まちの財政や人口状況からも新しいものを作るのは無理。3町合併で3つずつあるものを整理していくべき。
- サービスや施設は利用対象年齢が小さいほど近くに、年齢が上がるほど遠くで良い(高齢者は近くがよいが)。
- 近くのコミュニティを大切にしたい。
- 子育てサービスやスポーツ交流の場は近くにあって良い。
- 施設をどんな人や団体が使っているのか把握が必要。
- 小学校は旧町単位に1つずつ集約した方がよい。
- 庁舎や図書館は全町域、CATVはもっと広いエリアでも良い。
- 保育所の統合は少人数の良さもあるので、統合時の働き手の確保も必要。
- 与謝野駅をイベントスペース、地域のPR、物品販売等、人が集まれる場にす。

感
想

- 参加してみて、もっと意見が割れると思ったが意外と似たような認識だった。
- おもしろい話がいっぱい聞いて良かった。
- 住民への与謝野町の状況周知が足りない。
- もう少し具体的に現状を把握できないとなかなか発言ができない。
- 住民参加ができる今回の会議は勉強になるのでもっと開催するべき。
- 世代や家族構成によって課題等は違うと思うので、そういう個別で集まり考える場も必要かなと感じた。
- 大人目線で考えてしまっていたけど、高校生の話が出て若い世代のことも考えるきっかけになった。
- それぞれが問題意識を持っていると思うので、今こそ与謝野町民全員が丸となって問題解決に取り組む時期になっている。
- 参加されたメンバーの皆さんは周りの町民の方々のことを考え、意見を出されていることに感心した。

